

平成20年11月12日

各位

上場会社名 東和メックス株式会社
 代表者 代表取締役会長兼社長 村田 三郎
 (コード番号 6775)
 問合せ先責任者 執行役員経営管理本部管理部長 佐藤 武雄
 (TEL 03-5684-2321)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年8月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,300	△120	△95	△100	△1.39
今回発表予想(B)	2,707	△235	△236	△352	△4.89
増減額(B-A)	△593	△115	△141	△252	――
増減率(%)	△18.0	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,697	△137	△172	262	3.72

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,000	60	75	68	0.94
今回発表予想(B)	6,800	△220	△230	△350	△4.86
増減額(B-A)	△1,200	△280	△305	△418	――
増減率(%)	△15.0	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	6,663	△382	△509	△418	△5.87

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,800	30	10	10	0.14
今回発表予想(B)	1,881	3	5	△33	△0.47
増減額(B-A)	81	△27	△5	△43	――
増減率(%)	4.5	△90.0	△50.0	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	2,678	△107	△151	319	4.52

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,000	140	100	100	1.39
今回発表予想(B)	4,000	40	30	△10	△0.14
増減額(B-A)	――	△100	△70	△110	――
増減率(%)	――	△71.4	△70.0	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	4,874	△221	△336	△572	△8.03

修正の理由

(連結)

第2四半期連結累計期間の売上高は、子会社TOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. のアメリカ向け電子レジスター及び中国向け

徴税レジスターの納期遅れ、また、国内向けOEM先による電子レジスターの納期延期要請により予想を下回る見込みであります。

営業利益につきましては、TOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. の売上減に伴う粗利減とトータルテクノ(株)に於けるレジスター／POSの開発投資およびリストラ経費増等で予想を下回る見込みであります。

経常利益につきましては、営業損失増加の影響が大きく予想を下回る見込みであります。

四半期純利益につきましては、営業利益の修正理由のほか、子会社でありました(株)ニューロンのリストラ売却損(子会社株式売却損40百万円)および東和メックス(株)の商製品陳腐化による除却損(58百万円)等を主な要因として予想を下回る見込みであります。

(個別)

第2四半期累計期間の売上高は若干予想より増加しました。代理店販売は当該期予測より下回りましたが、ケータイ法人直需の売上高でカバーできる見込みであります。

営業利益につきましては、利益率はLED表示機では流通短縮および付加価値向上により大幅な粗利益率改善、ECR／POSは横這い、ケータイ等は低粗利率で、総合的にはLED売上減／ケータイ売上増によりトータル利益率が低下し予想を下回る見込みであります。

四半期純利益につきましては、特別損失の計上(主たるものは、ECRおよびEMSの商製品及びサービスパーツ等の除却損(52百万円)、QCTラブルでの損失補償(14百万円)等の計上があり予想を下回る見込みであります。

第3四半期以降の見通しにつきましては、当社は省エネ本命として成長分野のLED照明、そして「セールス」と「レンタル」に販売手法を2本立て化するLED表示機の拡販策、更にケータイ連動型レジ&LED表示機の業界初の新商品投入と、本来のメーカーに回帰し、競争力を高め、黒字の定着化を目指してまいります。

また、グループ事業会社の再構築に伴い、昨年末(12月)に香港に新規設立したTOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. は、世界景気の大変動リスクもありますが、10月以降ローエンドECR並びに中国向け徴税レジスターの受注増により、収益化の目途が見えてきました。

次に、技術者が大幅減少していた国内レジスターR&D部門は低級機モデルのR&DはTOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. へ移管し、国内R&D部門は、省エネ本命商品であるLED照明／LED表示機とSA(ストアオートメーション)及びケータイの2部門に集中しました。さらに子会社(株)トレッドを、08年7月に社名もトータルテクノ(株)と改称し、急成長市場分野のLED照明／デジタルサイネージ分野のR&Dメンバーを大幅に増員し、LED表示機は独創的モデル(カラーウス型／ケータイ連動)でトップシェアを拡大し、SA R&D部門は電子マネー／ケータイ財布で付加価値を高めます。

東和メックス(株)、単体の第3四半期以降の収益目途はつきましたが、中核子会社の業績はリストラ途上であり大幅な欠損となります。本格的寄与貢献は来期となる見込みであります。

以上の結果、通期業績につきましては、第2四半期累計期間の業績も影響し、連結及び個別とも予想を下回る見込みであります。今後、経営環境は益々厳しさを増しますが、ピンチをチャンスと受け止め、総力を結集して「チャレンジ NEXTステージへ!!」(08年経営スローガン)に向け精励致します。

* 上記記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。

以上